



# 「分からないからやってみる」「研究で1年間で全学年の担任がT1に」

## 神奈川県座間市立入谷小学校

座間市立入谷小学校では、全学年の担任が5・6年生の外国語活動の授業を行っている。全員で考え、実践してみることを大切に研究を深め、研究開始からわずか1年で、どの担任も外国語活動を指導できるようになった。

### すべての教師が チームに分かれて 指導案を考える

神奈川県ほぼ中央部に位置する座間市立入谷小学校は、県と市の研究委託を受けたのをきっかけに、2009年度から5・6年生で外国語活動を行っている。10年度の年間授業時数は25時間。同校の特徴は、1～4年生の担任も当事者意識を持つために、教師全員で研究を行い、授業も全員で行っている点だ。

「5・6年生を担任する先生は、年度ごとに異なります。新学習指導要領の全面実施に備えて、どの先生も授業を出来る状態にする必要がある

と考えました」（直井恵子教頭）

研究の初年度、1～4年生の担任は、1学期は外国語活動の授業を参観し、2学期はT2として、3学期はT1として授業を行った。指導案や教材も、長期休業期間を利用して5・6年生の担任と一緒に作った。

「見学だけでなく担任役として授業を行い、指導案や教材も作ることで、『自分達は関係ないし、何をしたら良いか分からない』から『分からないからこそやってみよう、何か出来ることはないか』と、当事者意識が高まります。そこから外国語活動の意義や楽しさに気付き、指導力を高めたいという思いが生まれま

す」（前田善仁総括教諭〈教務担当〉）

直井教頭は、全員が携わった指導

案作りの様子を次のように話す。

「子どもが楽しいと思える活動をするためには、まず教師が活動の楽しさを知らなければなりません。そこで、先生同士で『英語ノート』にあるゲームを行うなど、体験を重視し、その中で出た提案や工夫を、指導案や教材に生かしました。先生方は、『このゲームはぜひ子どもたちにも体験させたい』など、前向きに取り組んでいました」

研究は、5・6年生計6学級の担任がリーダーとなり、「5年1組チーム」「5年2組チーム」というように、1～4年生の担任を2～3人ずつ各チームに割り振って行う。担当する学級を固定することで、児童一人ひとりの性格や発言への積極性

を把握できる。他学年の担任が活動を行う場合、同じチームの教師が互いの学級を見合えるよう時間割を調整し、自習を減らしている。

こうした取り組みの結果、ほとんどの教師は外国語活動の経験が無く



アクティビティでは、相手と目と目を合わせてコミュニケーションを図ることを重視している。授業の最後はALTと目を合わせてハイタッチする



ゲームやアクティビティは教師同士で体験し、もっと盛り上げるにはどうするかなど、実際の授業に生かす方法を話し合う。「授業のない長期休暇中なら、1〜4年生の先生への負担を減らせます」（直井教頭）

児童の9割が  
「外国人とかかわりたい」  
教師のやる気も向上

児童の反応も、教師の意欲を高めたという。

「児童に書いてもらった授業の感

ったにもかかわらず、わずか1年間で活動を主導できるまでになった。ただ、研究開始当初は、消極的な姿勢の教師がいたのも事実。そうした教師の気持ちを盛り上げたのは管理職だったと、前田先生は説明する。「前校長が、全員で研究を行う必要性を説明し、理解を求めてくれました。会議でも、研究推進の提案に率先して賛成してくれました」

想を教師全員で読みました。『楽しかった』『またしたい』といった声は、初めて授業を行った先生の励みとなり、改善点や反省点を話し合うきっかけとなりました」（前田先生）

「今日のひとごと活動」は、児童に伝えたいという教師の意欲から生まれた。毎朝の会議で教師全員が「Let's take attendance. "Any volunteers?"などの教室英語の発音を練習し、意味と使い方を覚える。「使える教室英語を増やしたい」という先生方の声を受けて始めました。どのフレーズを使うかは、中学校で英語を教えていた直井教頭にアドバイスしてもらいます」（前田先生）

直井教頭は、活動を主導する教師に外国語の専門知識がなくても、活動自体は成り立つと話す。

「活動の目的は、あくまでも児童のコミュニケーション能力の育成です。外国語が分からなければ、ALTに聞いても良いし、日本語で話しても良いと、先生方に伝えていきます」10年度に5年生担任となった研究主任の西川麻里子先生は、日本語を使う利点を次のように説明する。

「外国語を使わなければいけないと思うと、私たちはどうしても単語や文法を正しく使おうと意識し、気負って緊張してしまいます。無理をせずに日本語で話す方が、活動をス

ムーズに進められますし、児童の様子にも目が届きます」

外国語活動を始めて以来、コミュニケーションへの児童の意欲も高まっているという。09年度の6年生へのアンケートでは、「外国人とかかわってみたい」という回答が9割以上を占めた。平野昭雄校長は今後の取り組みについて、次のように話す。「本校の児童は、元気良く挨拶をする、目を見て話を聞くといったコミュニケーションの基礎が出来ています。その良さをもっと伸ばせる外国語活動となるように、年間35時間の指導案を作るなど、皆でより良い活動を考えていきます」

School Data

神奈川県座間市立入谷小学校

**概要** 1978(昭和53)年開校。神奈川県と座間市から研究指定を受けた2009年度から、担任主導の外国語活動に取り組み、児童のコミュニケーション能力を伸ばす活動を続けている。

**校長** 平野昭雄先生

**児童数** 473人

**学級数** 17学級(うち特別支援学級2)

**所在地** 〒252-0024 神奈川県座間市入谷2-345

**TEL** 046-253-7211

**URL** <http://members2.jcom.home.ne.jp/iriya-ps/>

**研究発表会予定** 2011年1月28日



座間市立入谷小学校  
**平野昭雄** Hirano Akio

校長  
「『散慮逍遥』。問題・課題に、積極的に取り組む教師でありたい」



座間市立入谷小学校  
**直井恵子** Naoki Keiko

教頭  
「地域の方と共に、笑顔いっぱい豊かな子どもたちを育てていきたい」



座間市立入谷小学校  
**前田善仁** Maeda Yoshihito

総括教諭(教務担当)  
「子どもたちと一緒に行動し、教え伝えられながら成長する存在でありたい」



座間市立入谷小学校  
**西川麻里子** Nishikawa Mariko

研究主任 5学年担任  
「子どもたち一人ひとりの良さを伸ばすことが出来るように、頑張りたい」